

ごあいさつ

内田 青蔵(非文字資料研究センター センター長)

本非文字資料研究センターは、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の研究成果を継承・発展させ、世界に誇る非文字資料研究の拠点として活動することを目的に 2008 年 4 月に創設されました。

本研究センター名に冠された「非文字資料」とは、この「非」文字に象徴されるように、文字以外の方法によって表現された様々な行為や現象の記録、すなわち、写真・映像あるいは絵画・彫刻や建築といった図像資料と称し得るものから、環境・景観に刻まれた自然災害や人的活動の痕跡、さらには匂い・味覚・身体動作など文字化され難い様々な表現行為なども含みます。本研究センターでは、こうしたこれまでほとんど研究対象や研究資料として扱われてこなかった非文字資料に注目し、その資料化・体系化を進め、それに基づく新しい人類文化の研究の可能性を探求することをめざしています。

本研究センターの研究活動は、研究テーマ毎に共同研究班を組織し、3 年間を基本単位として行われ、2017 年度からは第四期が開始されます。新たにスタートを切る第四期では、本研究センターの基幹研究である生活絵引編纂共同研究をはじめ、第三期から継続される共同研究とともに、新たな課題を加えた 9 つという多くの共同研究が始まります。こうした多種多様な課題の実施ゆえ、共同研究に係る研究員は本学教員に加え学外の研究協力者などを含め、60 名を超える大所帯となります。この共同研究は、非文字資料研究の可能性を具体的に示すモデルとなり得るものでもあり、こうした多様な共同研究の成果は、研究期間である 3 年の間に、論文や公開研究会という形で一般公開されることになります。

一方、共同研究の展開とともに、新研究領域としての非文字資料研究の研究拠点としての役割の一環として、世界各地の非文字資料関連の研究センターや研究者と積極的にネットワークを構築しています。現在、本研究センターでは、中国、韓国、カナダ、ブラジル、フランスそしてイギリスを拠点とする 9 か所の大学・研究機関と提携し、情報交換を積極的に展開し、併せて、これらの研究機関との間で、これからの非文字資料研究を担う若手研究者の育成を目的に、相互の短期招聘ならびに派遣事業を実施しています。

研究員及びスタッフ一同、非文字資料研究の拠点としてその役割を果たすべく、努力していく所存です。今後とも非文字資料研究センターへのご支援とご理解をお願い申し上げます。